

鉾屋町
町内会だより

7月10日 資源回収

朝起きると、けつこう強く雨が降っています。ぎりぎりまで心配でしたが、ありがたいことに7時半には止みました。



今回は、流れとしてはスムーズに行ったように思えました。新たな回収方法が定着したようです。

不定期発行
発行者
鉾屋町町内会
編集 / 文責 / 撮影
桂 汎用工房
脇田 桂一郎
印刷
小松総合印刷
株式会社



次回の資源回収は9月11日となります。皆様のご協力をお願いいたします。

舟っこ流しつくり
7月10〜24日



3年ぶりに「舟っこ流し」が開催されることとなり、鉾屋町町内会でも舟っこの製作を開始しました。

今回は次世代への伝承も鑑み、「棟梁」山本 信雄さんから教えを請いつつ、町内会役員の岩崎 祐馬さんが中心となって、船体の製作を進めていきます。

また県立大学や岩手大学の学生さん、もりおかワカものプロジェクトの方々も参加しました。



舟の曲面に合うように、木材の「しなり」を確認する二人。(右・山本、左・岩崎)



船体の骨組みとなる角材を切り出していきます。

龍の首は、ピッピの吉田 政弘さんの担当です。型紙に合わせて合板を切り抜き、



「龍の首」を取り付ける板を固定しています。



船体を裏返して、底板を貼っています。手前はTV取材陣。



組んだ後、龍の絵付けを行います。こちらには、わかプロの方が手伝いに行っています。



船体の補強材を骨組みに留めていきます。船体と並行して、舟に載せる部品も作ります。中央に載せる墓を組み立て、



今回はテレビ岩手が、番組の制作ということで、長時間の取材を行いました。



これを組み立てて、幕布など

さらに墓の上にかかる、屋根の部材を切り出して塗装、



塗装し、文字を入れます。



藁縄を電動ドリルでより合わせて、曳き綱を作ります。



の装飾を取り付けます。



船体に側板を張ります。だいぶ舟らしくなってきました。だい



一番複雑な船尾部分の加工が終われば、船体はほぼ完成です。



墓とその屋根を、船体中央に取り付けます。



水性ペンキで船体を塗装していきます。



7月24日の終わりまでに、この段階まで出来上がりしました。この後、残りの組み立て、龍の首取り付け、飾り付けなどがあります。次号に続きます。



供養札をつける柵を組み立てます。

就労継続支援B型事業所 鉾屋町ベース



以前、テラーK&Mさんが入っていた建物に、就労継続支援B型事業所「鉾屋町ベース」が、7月1日オープンしました。これは障がいのある方が、就労のための訓練を行う施設です。1階にある店舗では、カフェの営業と物品の委託販売が行われており、接客や販売の作業を通じて就労の経験を積む、ということのようです。



店舗の営業時間は10時から16時まで。定休日は土日です。



しかし本体の生長は、今年のほうが早いです。どこまで伸びるんだろう。(桂)



7月23日に、最初の花が咲きました。去年より6日遅れ。

朝顔日記 2022